



第5号

高知県立高知国際中学校だより

高知県立高知国際中学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部2丁目5番70号

校長：森本民之助

いよいよ春休み

いよいよ春休みですね。本校に1年生が入学してはや1年が過ぎようとしています。この春休みを終えると1年生は2年生になり、学校には新しい1年生が入学してきます。高知国際中学校がどんどん成長しているのです。学校が成長するというのは少しおかしな表現かもしれませんが、本当にそのように感じます。成長は学校だけでなく生徒の皆さんにも見られます。12歳から13歳のたった1年間で自分の考えを持つこと、考えを発表すること、他の違った考えを受け入れることなどの能力が大きく育ちました。生徒の皆さんも自分自身の成長を直感的に感じていることと思います。この成長はいつも一定の速さ、割合で伸びるのではなく、大きく伸びるときもあれば、伸びるのを控えてぐっと基礎を培っているときもあります。成長には周期があり、このリズムを把握していることは自分を制御するときにとっても有効です。学校の学期や学年などの周期も、生徒の皆さんの成長に影響を与えます。この周期を竹の成長に例えると、どんどん伸びる部分と節の部分があり、伸びる部分だけだと強さが不足するし、節だけだと大きく伸びることはありません。この二つがバランスよくあることで、強く、しなやかに、そして高く伸びることができるのです。学校生活で、課業日を基礎の部分と考えるなら、休みは伸びる部分、学校で学んだことや培ったことを自分のものとして定着させ、そのことを試すときが休みのとき。特にこの春休みは、学年の変わり目です。1年間で成長した自分と向き合い、基礎をしっかりと定着させ、より強く、より高く伸びることを疑わず、ためらいなくこの春休みを楽しんでください。何事も悔いの残らぬよう、そして油断なさらぬようにお過ごしください。

一年間ありがとうございました

PTA代表：大畑裕子

真新しい制服姿の我が子とワクワクしながら入学式を迎えた日から、あっという間に一年が過ぎようとしています。

この一年は生徒の皆さんにとっても、保護者の皆さんにとってもワクワクと緊張の連続だったのではないのでしょうか？

私自身は、PTAを代表するという貴重な経験をさせて頂き『挑戦』の一年でもありました。（そう言えば第一回目のシェア会で【挑戦する人】を選んだような気がします…。）PTA代表として、学年行事の計画や段取り、学校行事のお手伝い、学校説明会で生徒の家庭での様子等をお話するなど、まさに『挑戦』の連続でした。一年を振り返ってみますと、PTAで活動することが私にとっては『SA』であったと思います。

保護者の皆さんには、年間ご理解とご協力を賜り役員を代表し心よりお礼申し上げます。

この一年で随分成長した生徒の皆さんと共に、高知国際中PTAが益々成長・発展できるよう活動して参りたいと思います。来年度、一緒に『SA』してみませんか？

「持続可能な発展」について学習しました

学年主任：堀 謙一

2月18日（月）の1時間目は、合同学級活動として「持続可能な発展」を学ぶ授業を行ないました。これは、UCCホールディングス株式会社が提供する「人と世界を結ぶコーヒー物語」という教育プログラムを利用した、環境と開発のバランスについての学習を通して「ものの見方を広げる／増やす／改める」ことを目的とした学習です。

UCCホールディングスはコーヒー事業を中心とした企業であることから、赤道付近に位置する国々との取引が活発です。しかし、過剰で公平性を欠く考えに基づいた開発は、一時的な経済的優位をもたらしますが持続的ではなく、長くない未来に破綻する可能性があります。そうならないように、現地の生産者や国に対して、生産力や公平性を確保しつつ開発を進めていくという姿勢を重視するのが「持続可能な発展」の根幹となる考え方です。そしてその時に重要となることは、「自分のものの見方に気付く」ということです。それは、これまでリソース＝資源として認識されることがなかったモノや見方・考え方に気付くということです。

自分たちだけの幸せを考えるのではなく共に幸せになる方法を考える。これまでゴミだと社会的に認識されていた、あるいはこれまで顧みられることがなかったモノや考え方に新たな価値を見出す。そのようにすることで、この社会と世界についてのよりよい関係を模索する姿勢は、まさにIBの目指す方向と同じであると思います。

今回の授業も、この「自分のものの見方に気付く」という点を大事に授業をしました。授業後のアンケートにはそのような認識に触れるものが多くありました。

総合的な学習の時間最終発表会

総合担当：佐野 武

2月19日(火)、本校において、総合的な学習の時間最終発表会を行いました。

総合的な学習の時間「学校探究」では、自分たちの学校についての疑問から調べたい探究テーマを設定し、10カ月に渡る長期的な計画を立てて探究の進め方を学んできました。生徒の設定した探究テーマは、学校の設備や教員に関するもの、IBのプログラムやiPadの活用といった本校の特色に関するものなど多岐にわたり、班ごとに異なる調査方法で疑問に迫り、最終的に記事または動画の形式でまとめました。

最終発表会では、発表以外にも参観者を交えた「協議」の時間を設け、参観された保護者の方々からも鋭い質問が飛び交い、活発な議論を行うことができました。また、講師に玉川大学のカメラクインシーさん及びエフエム高知の谷本美尋さんの2名をお招きし、研究の切り口や相手に伝える技術についてご指導をいただきました。

生徒はこの1年間でプロジェクト学習の基礎となる探究サイクルの理解や、IBの学習の方法(ATL)を身に付けてきました。特に、文献等で述べられていることと自分の考えをきちんと分けたり、まだ分かっていないことに対して誠実な応答をする態度が身につけてきたと感じられます。今年度の学びを活かし、2年生では探究の対象を校外・海外へと広げてまいります。

SA発表会

SA担当：古屋佑奈



【ポスターセッションの様子】

3月8日(金)にサービスアズアクション(SA)の発表会がありました。この発表会は、主な目的を①自己の活動を振り返ること②他者のSAを知ること③SAの意義を考えること④協働者を創ること、の4つに設定して行いました。発表の形式は、ポスターセッションと、投票によって選ばれた代表者によるスライドを使用したプレゼンテーションでした。また、発表会の終盤には、参観者にも参加していただいた1年間の振り返りも行いました。参観者や来賓の方々からは、生徒の皆さんの活動内容のみならず、質問への受け答えや堂々と発表する姿、ポスターやスライドのまとめ方等、「中学1年生とは思えない!」という反響をいただきました。そして最後には、来賓の方々から「貢献活動の視点」と「伝わりやすさの視点」から講評をいただき、自分たちの活動を客観的に振り返る機会となりました。発表をすることがゴールではなく、また明日からのSAに繋がる機会になっていたら、この発表会は大成功!だと思います。振り返りシートの中には、「次はこんなSAをやりたい」「〇〇さんのように人を引き付ける話し方をしたい」「最初はつらいだけのものだと思っていたけど、今はやりがいを持つためのきっかけだと思える」「計画が最も大事だ」といったように、多様な視点で振り返ることが出来ているようでした。この経験は、ぜひ来年度の新入生にも共有してほしいと思います。そして、みなさんのSAの“輪”が高知に、四国に、日本に、そして世界に繋がっていきますように。

学際的単元

理科・保健体育科担当

3学期は、理科と保健で学際的単元という科目に取り組みました。学際的単元とは、年に1回以上取り組む必要があり、複数の科目を同じ概念や考え方で授業を進めていくという科目です。

今回、理科と保健で「システム」という共通概念、「システムは均衡を保つ」という共通の探究テーマで授業を実施しました。どのような授業を行ったかという、例えば「呼吸」という内容を扱う際には、理科では、呼吸の役割やメカニズム、体への影響などを学習し、保健では、呼吸数と運動量の変化の関係性、持久力を上げるための呼吸の必要性などについて学習しました。また、1月15日に行った性的マイノリティについての講話に合わせて「性」に関する単元を理科と保健で扱い、人権教育と教科教育の両面から体の性と心の性についての理解を深めることができました。

理科・保健それぞれの各授業時において、コンセプトマップ(図1)を作成し、2つの教科がどのようにつながっているかについて、キーワードで繋げることで視覚的に整理してきました。コンセプトマップを作成することで、教科のつながりを意識することができるとともに、新たな繋がりも発見でき、更に学習内容を深めることができます。単元テストでは、保健で学習したことを理科的に説明することや、学際的単元を学習することの利点と限界について説明する。と言った内容のテストを実施しました。学際的単元の学習を通して、教科の学習が教科内のみで終わるのではなく、複数の教科を横断的に学習することで、「学習の意義」について改めて考えることができました。学際的単元は、毎年1回以上実施します。



【図1 生徒作成コンセプトマップ】

空手の授業

体育科：武中将輝・古屋佑奈

シーンと鎮まる体育館。覗いてみると空手の授業中でした。海外との交流の機会が多い本校では、道具を必要とせず、どこでも形(型)を披露でき、オリンピック種目にもなっている空手が武道の種目として選ばれています。指導は空手経験のある武中教諭。今回改めて空手道場に通り、基本を学び直しながら指導にあたりました。どの武道にも共通する、相手を尊敬する気持ち、礼法の重要性やひとつひとつの動きに込められた意味を確認しながら授業が進みます。今回は空手とダンスを1つの単元とし、「エネルギーのバランスは美しさを創造する」という探究テーマで進めてきました。空手初経験の生徒ばかりでしたが、生徒たちは空手に関連する様々なトレーニングや動きづくりを経て、単元の最後には「たっ!!」と気合を入れながら型を披露できるようになりました。空手におけるエネルギーとは何で、どのような形(型)が「美しい」と評価されるのか。そこに対する自分なりの理解が、どのような形で他の学びに転移できるのかとても楽しみです。



【「たっ!!」とかけ声を発し、空手の形(型)を習得する】

錬歩会

体育科：古屋佑奈

2月14日(木)に、第1回高知国際中学校錬歩会を実施しました。全長13kmの起伏のあるコースで、高知西高校の高校生と同じ道のりを歩くということは、中学生にとって大きなチャレンジだったと思います。タイムを競う高校生とは異なり、「協力して全員でゴールしよう！」という目標を掲げ、意気揚々とスタートしました。歩き始めは元気に歌ったり、楽しく会話したりしながら進んでいた人も、徐々に口数が減っていき、関門である鷲尾山についた時にはみんなグッタリしていました。それでも、声を掛け合いながら歩き、ほとんどの生徒が無事にゴールすることができました。



終わってみると、つらかった思い出として残っている人もいるかもしれませんが、心地よい疲労感と達成感を味わうことが出来た人も少なくないのではないのでしょうか。自分がつらい時こそ他人を思いやるということは、簡単なことではありません。これから生活していく中で、そんなことを少しずつ意識していけたらいいですね。そして、協力してくださったPTA役員の皆様や、途中で見守ってくださった高知西高校の先生方に感謝の気持ちを持つことを忘れずに。

[まだまだ元気!!]

みなさん本当によく頑張りました！ご協力いただいたPTA役員の皆様、ありがとうございました。

2月19日、20日 憧れの食堂を体験しました

「僕たちもラーメン食べたい」「いいなあ〜カレーライス・・・」
ランチタイムにガラス戸の向こうに見える高校生の食事風景を、どれほど羨ましそうに見ていたでしょう・・・。

本校は平成31年度から給食になります。そこで、その前に、食堂を利用できるようにしよう！と立ち上がった二人、
近森 翔陽さん、宗 在希さんからのコメントを紹介します。

最初に校長室にお願いに行ったのは10月頃。二人の計画によっては実行可能ということになりました。その後もアンケート作成の時や、結果の報告など何度か校長室に行きドキドキしました。(宗)

実施直前は、保護者のみなさんへの連絡、食券の買い方等のホーム連絡、食堂へのご挨拶等細かな仕事がありました。いろいろありましたが、当日、高校生の先輩に交じって、みんながマナーを守っていたし、片付けもきちんとできていたので、よかったと思いました。(近森)

利用した友達も「おいしかったし、楽しく嬉しかった」と話してくれてやっかいかいがあったと笑顔の二人。校長先生からの許可をいただき、実行できるまでの間には、ずいぶん時間がかかりました。それでも友達や食堂の皆さんの笑顔を見てなんとも言えない達成感があったことと思います。ご協力くださったみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。



[食堂を利用した昼食の様子]

それゆけ！突撃インタビュー。

担当：月光

「それゆけ！突撃インタビュー。」第三弾です。このコーナーは高知国際中学校を一緒に創りあげてくれる人々に、謎の記者（月光）が突撃インタビューを敢行します。今回は、高知国際中学校の基礎を創りあげた初代校長の松木優典先生へのインタビューです。

2 初代校長として高知国際中学校の立ち上げについての思い出などお聞かせください。 本当に何も無い所からの始まりでした。当時は西高校がSGH 研究指定や校名問題でとても大変な時で、そこに重ねてのIB 教育の導入、中学校の開校という大事業でした。さらには校舎の建築、共同グラウンドの整備、他に2020 ころち総文のことまで加わり、文科省や県庁、教育委員会、大学、IBO とIB 関係の方々、高文連、校友会、工事会社等の方々とはほぼ毎週大きな打合せがあり、大変苦労したことを思い出します。特に、思い出深いのは、筑波大学大学院の学生に高知国際中の宣伝に行った時、突然、学生たちの前で英語で挨拶＆スピーチをしたことです。その時の授業の使用言語が英語だったので、自然の流れで英語での挨拶となりました。私は国語科の教員でしたので、なんともはや・・・。

3 今どのような職に就かれていますか。 ころち若者サポートステーションの所長をしています。高知県社会福祉協議会が国と県から委託を受けて、15 歳～39 歳の仕事にも学校にも行っていない若者の就労・修学の支援を行っています。開設されて12 年経過し、1,300 人が“卒業”し、今は140 人が就労・修学に向けて頑張っています。それぞれ事情はありますが、みんな明るく前向きにそれぞれの取組を進めているところです。

4 今のお立場から、高知国際中学校をみての印象を教えてください。 森本校長はじめ、今の先生方に引き継いでもらってよかったと思っています。開校準備に関わった先生方、現在国際中で働いている先生も、国際中を離れた先生も、先生方が目指した方向にきちんと進んでいるように思います。IB 教育の方針のもと自ら考え行動できる人になれるよう、生徒の皆さんもしっかりと歩みを進めてくれていると聞いています。どうぞこのまま生徒の皆さんも学校も成長してほしいと思います。

5 松木先生が一番楽しい時間はどんなときですか。 高知西高校やそれまでに勤務した学校で出会った生徒たち、国際中の1 期生とは学校説明会や入試でしか顔を合わせていませんが、高知国際中の皆さん、また、今サポステで出会う若者たちがそれぞれに成長して、笑顔を見せてくれる時が一番楽しいです。

6 高知国際中学校にメッセージをいただけますか。 高知国際中学校の生徒、教職員の皆さん、いっぱい、いっぱい経験をしてください。失敗を恐れず、たくさんの経験を積んでください。経験が思考の元になり、学習が正しさを導いてくれます。経験のないところには思考が生まれません。学習のないところには正しさが生まれません。頑張ってください。

新学期当初の行事予定

4月8日(月)	平成31年度始業式及び第2回入学式	【持ち物】	【服装】
8:40	旧ホームに集合	・昼食、水筒	正装
(1-Aの生徒は2-A教室、1-Bの生徒は2-B教室)		・筆記用具	(ネクタイ・ジャケット着用)
8:55	式場準備及び始業式	・ぞうきん 3枚	
12:05	昼食	・体育館シューズ	
13:10	集合の後、体育館へ移動		
13:30	入学式開始	4月9日(火)	離任式・高校生との対面式
終了次第	片付け		新入生歓迎会等
16:00	下校予定		※お弁当が必要です
	※お弁当が必要です	4月10日(水)	身体測定
			※給食開始(新2年生)

高知県立高知国際中学校
〒780-0852 高知県高知市鴨部2丁目5番70号
TEL:088-844-1221 FAX:088-844-4823
URL: <http://www.kochinet.ed.jp/kokusai-jh/>
Email: kokusai-jh@kochinet.ed.jp